

建築士会東海北陸ブロック会 青年建築士協議会

令和4年度ブロック浜名湖大会



開催日：2023年2月11日(土)～12日(日)

会場：浜名湖リゾート&スパ THE OCEAN

舞阪協働センター 他

参加登録費：15,000円

(参加・懇親会・宿泊・朝食・見学科含む)

定員：100名程度(青年建築士協議会定員)

申込締切：2023年1月11日(水)

CPD単位：全プログラムで6単位申請予定(2日間)

参加資格者：青年建築士層

問い合わせ先：各県建築士会事務局(青年委員会)

【大会スケジュール】

ー1日目ー 2月11日(土)

12:30～13:00 受付

13:00～13:40 開会式

13:45～15:00 全体会

15:15～17:00 分科会

17:00～ チェックイン

18:30～20:30 懇親会

ー2日目ー 2月12日(日)

7:00～ 8:30 朝食など

8:30～11:30 まちあるき

11:45～12:15 閉会式

<事業内容>

1日目：分科会

災害対策について学びます。

2日目：浜名湖まちあるき

3つのコースに分かれて浜名湖のまちを堪能します。

主催 建築士会東海北陸ブロック会
青年建築士協議会

後援 浜松市



■ 東海北陸ブロック青年建築士協議会とは？

この協議会は、青年建築士に共通の問題を協議し、建築士としての業務上の進歩改善や建築士の品位の向上を図り、若い力を結集し、進展する社会に対応する魅力ある建築士会の発展に貢献することを目的としています。

合言葉は『東海・北陸はひとつ！』

■ 協議会メンバーとは？

(公社)愛知建築士会 (公社)岐阜県建築士会 (公社)静岡県建築士会
(一社)三重県建築士会 (一社)石川県建築士会 (公社)富山県建築士会
(一社)福井県建築士会 の青年建築士

■ 具体的にどんなことをやっているの？

各県の青年建築士の代表が集まって、年3回の会議を行っています。

(各県事業報告・情報交換・ブロック運営・事業・広報等)

また、東海北陸7県の青年と女性建築士がひとつの場所に集まり

年1回のブロック大会を行っています。

ブロック活動内容(地域実践活動の発表会、まちづくり見学会、体験ワークショップ全国大会、連合会事業への参加など)



申込方法：Google Forms にて必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

問 合 せ：shizuoka.convention@gmail.com

Google Forms URL：https://forms.gle/k9TPFmPiuA2diGcc6

Google Forms QRcode →



参加申込者には、後日各県青年委員長よりスケジュールについてご連絡させていただきます。

大会実行委員長 小野田 知矢(小野田建築)

氏名		TEL	
住所		FAX	
		E-mail	
勤務先		所属県・支部	

【テーマ】 「災害とこれからの建築士」

近年、地震や台風、大雨による災害が全国のどこかで毎年起きています。日本は昔から地震や津波、火山、台風などの災害により被害を受けてきました。地名にその土地の特徴が垣間見えるように先人たちは自然の記録をいくつも残してくれています。

災害発生時には多くの方が協力して復興を目指していきます。その中でも我々建築士に関係が深い応急危険度判定について注目してみます。大地震発生時には応急危険度判定士が集められ、被災した建物の現状を調査していきます。しかし、実際に応急危険度判定を行ったことがある方はかなり少数かと思います。そこで、分科会1では行政の方から仕組みや概要を、また実際に阪神淡路大震災の時に応急危険度判定を行った西井様にご講演いただき知見を深めていきたいと思います。

地震だけではなく水害や土砂災害も近年よくニュース等で見かけるようになりました。一般の方の生活再建に向けての支援制度や法律については詳しく知らない方が多いのではないのでしょうか。分科会2では弁護士の永野様にご講演いただき、被災者支援や様々な土業の取り組みを学んでいきたいと思います。

南海トラフ地震は100年～150年周期で起きると推定されています。中でも1498年の明応地震では浜名湖が太平洋と繋がり今切口が形成されました。以降、地震や暴風雨、台風により今切口は拡大していき現在の姿へと移っていきます。この今切口ができたことにより東海道は船渡しとなり、新居関所が交通の要所となっていきます。新居関所は自然災害により2回移転しています。そしてその移転に付随して新居宿やお寺などの町も一緒に移転してきた歴史があります。主要街道の関所として唯一現存する関所であり、また町役場や学校としても使われてきた建物でもあり、災害とともに歩んできた歴史をぜひその目で体験していただきたいと思います。

このように災害と歴史には深い繋がりがいくつもあります。浜名湖以外にも皆さんがお住いの地域に昔から伝わるものがたくさんあるでしょう。今回の静岡大会では実際に今切口を見たり、津波防災タワーとなるホテルに宿泊したり、過去の災害と現在を比較していききたいと思います。

東日本大震災から10年以上が経過した今、もう一度防災の意識を高め、建築士として建物や住む人の安全性を高めていけるよう先人の記録から現代、そして未来へ繋げていけたらと思います。

建築士会東海北陸ブロック会 青年建築士協議会

令和4年度ブロック浜名湖大会 プログラム

【テーマ】 「災害とこれからの建築士」

【日 時】 令和4年2月11日(土) 13:00~20:30
12日(日) 8:30~12:15

【会 場】 舞阪協働センター
(浜松市西区舞阪町舞阪 2701-9)
浜名湖リゾート&スパ THE OCEAN
(静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 3285-88)

ー1日目ー

【受付】舞阪協働センター1階:12:30~13:00(30分)

- 青年建築士協議会・来賓等

【開会式】舞阪協働センター「大ホール」:13:00~13:40(40分)

- | | | |
|-------------|--------------------|-------|
| ● 開会の言葉 | 青年建築士協議会事務局長 | 岩瀧 卓 |
| ● 綱領唱和 | 青年建築士協議会運営副委員長 | 野田 拓美 |
| ● 開会挨拶・趣旨説明 | (公社)静岡県建築士会大会実行委員長 | 小野田知矢 |
| ● 来賓挨拶 | 浜松市長 | 鈴木 康友 |
| | (公社)日本建築士会連合会会長 | 近角 眞一 |
| | (公社)日本建築士会連合会青年委員長 | 山本 道善 |
| ● 開催県挨拶 | (公社)静岡県建築士会会長 | 飯尾 清三 |
| ● 来賓紹介 | | |

【青年全体会】舞阪協働センター「大ホール」:13:45~15:00(75分)

- | | | |
|-----------------------------------|------|-----|
| ● 連合会青年委員会報告(連合会青年委員 柴田 和彦) | | 3分 |
| ● 各県活動報告(東海北陸7県) | 7分×7 | 49分 |
| ● THB 青年事業報告(青年建築士協議会運営委員長 青野 茂和) | | 3分 |
| ● 活動報告投票 | | |

【協賛紹介】15:00~15:05(5分)

【休憩・移動】15:05~15:15(10分)

【分科会】舞阪協働センター「大ホール」「講義室1」15:15~17:00(105分)

- 分科会1:応急危険度判定を考える(大ホール)
- 分科会2:大規模災害時の生活再建のための支援制度や法律を学ぶ(講義室1)

【チェックイン・移動・休憩】17:00~18:30(90分)

- 舞阪協働センターから、ホテル THE OCEAN に移動

【懇親会】THE OCEAN 3階「アクアマリン」18:30~20:30(120分)

- 挨拶・乾杯
- 活動報告投票結果発表
- アトラクション
- 中締め

—2日目—

【朝食・出発準備】7:00～9:00（120分）

- 8:30 までに入場

【まちあるき】~~THE OCEAN 1 階「待合スペース」~~8:30～11:25（各グループ 115 分）

※各グループ 10 分前までに集合

- Aグループ 8:30～10:25
- Bグループ 9:00～10:55
- Cグループ 9:30～11:25

【閉会式】THE OCEAN 3 階「アクアマリン」 11:45～12:15（30分）

- 閉会挨拶 （公社）静岡県建築士会副会長
- 青年建築士協議会運営委員長挨拶
- 次年度ブロック大会案内
- 次年度全国大会案内
- 監事所見 （一社）石川県建築士会
- 閉会の言葉 青年建築士協議会事務局長

鈴木 純哉
青野 茂和
愛 知 県
静 岡 県
小川 純矢
岩瀧 卓

【解散】12:15～

- 各県自由解散

■分科会 1

分科会内容 応急危険度判定を知り、地震に備える

日時：令和 5 年 2 月 11 日(土)15：15～

場所：舞阪協働センター ホール

内容：近年は東南海トラフで発生する地震だけではなく、各地で頻発する震度 6 以上の地震が頻繁に起こっています。応急危険度判定資格を取得後、現場にて応急危険度判定をした人間は極わずかです。実際に応急危険度判定するまでに応急危険度判定の歴史と実際の活動時の注意点などを学び、大地震後に慌てずに活動を行えるように知り、備えましょう。

プログラム：

①応急危険度判定の歴史と運営の流れ 20 分

講師：静岡県 暮らし・環境部 建築住宅局 建築安全推進課
建築耐震班 主査 篠原 靖幸

②応急危険度判定の実施要領 75 分

講師：西井構造設計事務所 西井様

講師プロフィール

有限会社西井構造設計事務所

代表取締役 西井 裕敏

1955 年(昭和 30 年)浜松市生まれ。昭和 53 年日本大学理工学部建築学科卒業。昭和 58 年 西井構造設計事務所開設。昭和 62 年(有)西井構造設計事務所に改組。

平成 5 年から 30 年まで被災建築物応急危険度判定士養成講習会講師を行っていた。平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災の応急危険度判定士活動の実地での判定も行っている。また、静岡県建築士事務所協会 耐震判定会委員・震災建築物被災度区分判定士養成講習会講師・浜松市屋外広告物講習会講師・全国鉄骨評価機構指定性能評価調査員・静岡文化芸術大学デザイン学部講師などを経験、継続中。



■分科会 2

分科会内容：大規模災害時の生活再建のための支援制度や法律を学ぶ

日時：令和 5 年 2 月 11 日(土)15：15～

場所：舞阪協働センター

内容:現状、近年頻発する大規模災害は地震だけではなく、熱海伊豆山地区の土石流災害や西日本を中心とした令和 3 年 8 月の大雨など様々な自然災害が起きています。しかし被災した後、どのようにして生活再建を行うのか、どのような支援制度があるのか等の必要な情報は一般の方々には届いていないのではないのでしょうか。

建築士としてどのような被災者支援ができるのかを学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

目的；

- ・災害救助法、被災者生活再建支援法、罹災証明の活用など、災害発生時に大切になる支援制度の知識を備えます。また建築士としてどのような被災者支援があるのかを学びます。
- ・「被災者生活再建カード」を用いたワークショップを行い、被災後に生活再建をする上で活用できる支援制度を具体的に考えます。

方法：

- ・講師による被災者支援制度の講義
静岡県弁護士会の災害対策の取組み、その他全国の弁護士を含む士業の取組みを紹介しながら、士業による被災者支援の実例、士業が効果的な被災者支援を行うための方法についての講座をしていただきます。
士業と自治体やボランティアとの災害連携についてもお話をさせていただきます。
- ・「被災者生活再建カード」を用いたワークショップ
「被災者生活再建カード」とは被災後に生活再建をする上で活用できる支援制度を具体的に考えるようなツールです。
災害前の支援制度の知識の備えとして活用していただくだけでなく、実際の被災された方への支援活動でも、その方に関係のあるカードを切り取り、用紙に貼り付けて、コメントなどもつけて持ち帰っていただく形で活用しています。
こうした活用は、支援者も頭の整理をしながら、今後の生活再建の道筋の助言ができ、被災された方は、家で貼り付けてもらったカードをじっくり見直しながら助言内容を思い出したり、家族で話し合ったり、今後の生活再建の流れを大まかにイメージすることもできます。

プログラム：

- ① 被災者支援制度の講義 （約 30 分）
講師：弁護士 永野 海氏（静岡県弁護士会）
- ② 「被災者生活再建カード」を用いたワークショップ（約 45 分）
進行役：弁護士 永野 海氏（静岡県弁護士会）



講師プロフィール

弁護士 永野海様

- ・日本防災士機構防災士／ふじのくに防災士
- ・日本弁護士連合会災害復興支援委員会副委員長
- ・日本災害復興学会復興支援委員会委員

慶應義塾大学卒業（計量経済学専攻）後、弁護士として活躍。

防災活動として、東日本大震災の被災地取材・調査、判例分析や各地で東日本大震災の教訓を伝える防災講演活動を行う。子どもたちが楽しみながら津波避難を学び、体験できる「津波避難シミュレーションゲーム」を開発し、静岡県内や被災地の小学校などで津波授業を実施。静岡市教育委員会学校防災アドバイザー。

また被災者支援活動として東日本大震災、西日本豪雨、東日本台風、熱海土石流災害、令和4年台風15号などで現地支援活動を行う。

各地の自治体や士業団体、災害 NPO 団体、市民向け等で被災者の生活再建に関する講座を実施。各種支援制度の情報提供ツールの開発も手掛ける。

講演会・ワークショップの様子





新居関所は災害の度に移転し、全国唯一現存する関所です。

新居関所は、正式には「今切関所」といわれ、慶長5年(1600)に設置されました。当初は今切口(遠州灘の浜名湖開口部)近くにあったが、地震・津波により二度移転し、宝永4年(1707)の大地震の翌年に現在地に移りました。その後、嘉永7年(1854)の地震で倒壊したため、安政2年(1855)から同5年にかけて改築したものが現在の建物です。昭和30年(1955)国の特別史跡に指定、同46年に解体修理を行い、全国で唯一現存する関所建物となっています。





新居関所までは大型バスで移動します。

バスでの移動中には是非浜名湖の絶景をお楽しみください。また新居関所周辺には宿場町の雰囲気を感じることができます。



3グループに分けてまちあるきをします。

2日目は下記のタイムスケジュールに分かれてまちあるきを行います。また、朝食会場も混雑を避けるため、A, B, Cグループを30分づつずらしています。ご協力をお願い致します。

まちあるき後にはホテルにてお土産屋さんをお招きしています。浜松の思い出とともに、たくさんのお土産を買ってお帰り頂けます。

Aグループ 50人		Bグループ 50人		Cグループ 50人	
7:15 ~ 7:45	朝食	7:45 ~ 8:15	朝食	8:15 ~ 8:45	朝食
8:30 ~ 8:45	バス出発・新居関所へ移動	9:00 ~ 9:15	バス出発・新居関所へ移動	9:30 ~ 9:45	バス出発・新居関所へ移動
9:00 ~ 10:30	まちあるき	9:30 ~ 11:00	まちあるき	10:00 ~ 11:30	まちあるき
10:10 ~ 10:25	ホテルへ移動	10:40 ~ 10:55	ホテルへ移動	11:10 ~ 11:25	ホテルへ移動
10:25 ~ 11:30	自由時間（お土産・散歩など）	10:55 ~ 11:45	自由時間（お土産・散歩など）		
11:30 ~ 12:00					

開会式・ホテル駐車場にて写真撮影

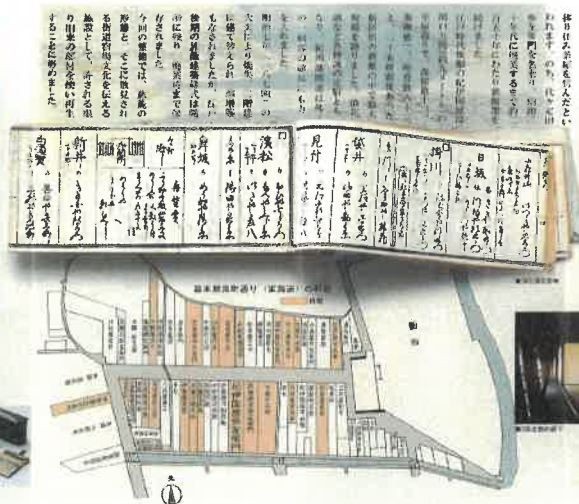
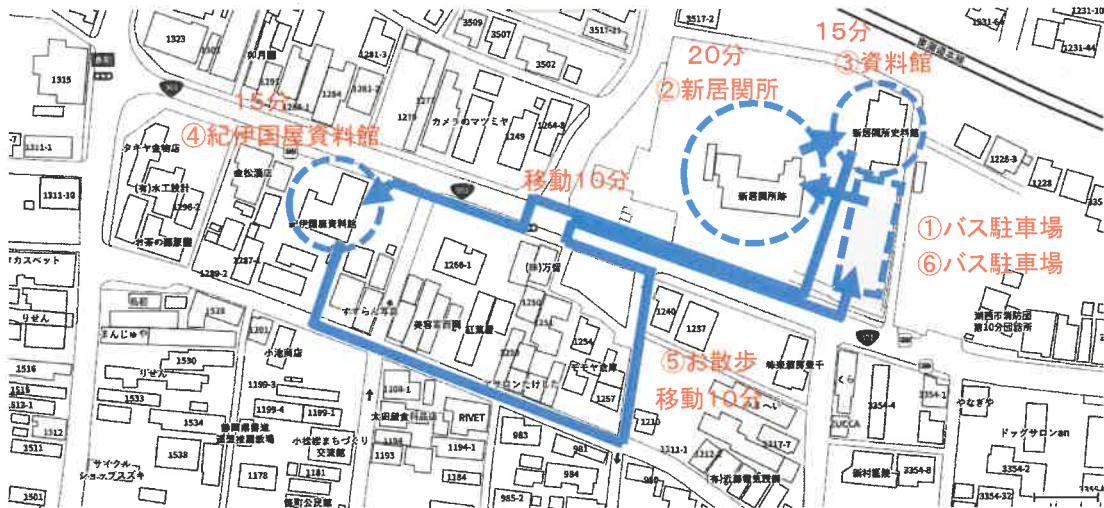


ホテル南側の駐車場に集合！
バスの出発時間は、
Aグループは8:30
Bグループは9:00
Cグループは9:30 です。



まちあるきは計70分を予定しています。

地元のボランティアガイドさんと共に、新居関所、歴史資料館、宿場として利用されていた紀伊国屋資料館をまわります。貴重な当時の建築的なパネル資料も特別に用意しています。



令和4年12月吉日

令和4年度 東海北陸ブロック大会静岡県浜名湖大会 協賛のお願い

東海北陸ブロック会青年建築士協議会ブロック大会

静岡大会実行委員会 実行委員長 小野田知矢

静岡県青年企画委員長 加茂 潤之

拝啓 時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は青年企画委員会の活動にご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、東海北陸ブロック協議会(愛知・三重・静岡・岐阜・石川・福井・富山)では年に一回、東海北陸ブロック大会を開催しています。この大会は各県で積極的に活動をしている青年建築士が集い、様々な企画や会議を通して、各県の建築士会で取り組んでいる活動をより良いものにする為の学びの場として開催しています。

この大会は毎年持ち回りにより各県で開催されており、今年度は静岡県で開催いたします。昨今の経済状況は依然と混沌としていますが、このような時代だからこそ継続的に未来の建築士会を担う全国規模よりも少し小さい東海北陸ブロックの青年建築士の交流、研修、会議の場にご協力、ご賛同いただくと共に、ご協賛金を賜りたく下記のようにご連絡申し上げます。重ねて、厳しい時代にいる我々、青年委員会の活動にご支援をお願い申し上げます。

敬具

記

[大会について]

【日時】 令和4年2月11日(土) 13:00~20:30

12日(日) 8:30~12:15

【メイン会場】舞阪協働センター 静岡県浜松市西区舞阪町舞阪 2701-9

【宿泊】 浜名湖リゾート&スパ THE OCEAN 静岡県浜松市西区舞阪町舞阪 3285-88

【テーマ】 「災害とこれからの建築士」

近年、地震や台風、大雨による災害が全国のどこかで起きています。日本は昔から地震や津波、火山、台風などの災害により被害を受けてきました。地名にその土地の特徴が垣間見えるように先人たちは自然の記録をいくつも残してくれています。

分科会では、実際に経験した人が少ない応急危険度判定や、災害後に土業がどのように地域住民の生活再建に関わっていくのかを阪神淡路大震災や伊豆山の土砂災害で活躍した講師の方に講演いただき、知見を深めていきたいと思います。

1498年の明応地震では浜名湖が太平洋と繋がり今切口が形成されました。今切口ができたことにより東海道は船渡しとなり、新居関所が交通の要所となっていくます。新居関所は自然災害により2回移転しており、付随して新居宿やお寺などの町も一緒に移転してきた歴史があります。主要街道の関所として唯一現存する関所であり、また町役場や学校としても使われてきた建物でもあり、災害とともに歩んできた歴史をぜひその目で体験していただきたいと思います。

このように災害と歴史には深い繋がりがいくつもあります。今回の静岡大会では実際に今切口を見たり、津波防災タワーとなるホテルに宿泊したり、過去の災害と現在を比較していきたいと思います。

東日本大震災から10年以上が経過した今、もう一度防災の意識を高め、建築士として建物や住む人の安全性を高めていけるよう先人の記録から現代、そして未来へ繋げていけたらと思います。

※直接お支払いご希望の場合

当会担当者より連絡をさせていただいた上で、近隣の実行委員がいただきに伺う様にいたしますが、伺う事が困難な状況の場合は振込にてお願いする可能性がありますので、その際はご容赦くださいますようお願いいたします。

また、5万円以上はお手数ですが振込をお願いします。

尚、安全を第一に考え、荒天や、災害が発生した場合は、やむを得ず中止させていただくこともあります。その際にも協賛金はお返しできませんので、予めご了承ください。

その他不明な点は下記までご連絡下さい。

静岡県建築士会青年委員会 東海北陸ブロック会青年建築士協議会静岡大会実行委員会

実行委員長 小野田知矢

TEL : 090-5111-3593

FAX : 053-454-9030

Email : shizuoka.convention@gmail.com

以 上

附則

【配布資料広告】

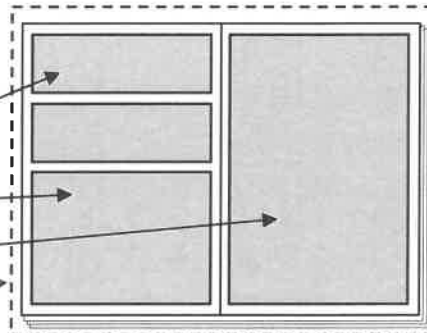
サイズ

5000 円 A4 サイズ 1/4

1 万円 A4 サイズ 1/2

3 万円 A4 サイズ 1 ページ

5 万円 A4 サイズ見開き



※製本見本



【全体会CM】

2 万円 CM放映（懇親会及び大会休憩時間に放映）

※企業及び商品紹介動画の提供をお願いします。

【PRブース】

2 万円 会場エントランス周辺（1 日目の舞阪協働センター）にPRブースを設置

※ブースの準備及びPRにつきましては各企業様で対応をお願いいたします。

※設置場所に限りがありますので、先着順とさせていただきます。

※協賛の締め切りは令和 5 年 1 月 14 日までとさせていただきます。